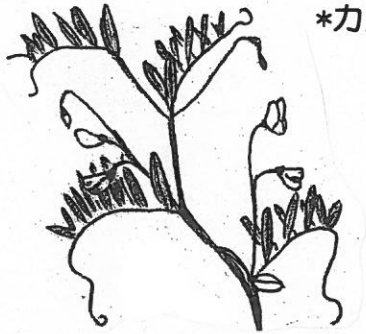
生態園観察マップ　＊＊行ってみよう見つけてみよう＊＊　新緑編

＊レンゲソウ

＊カラスノエンドウ

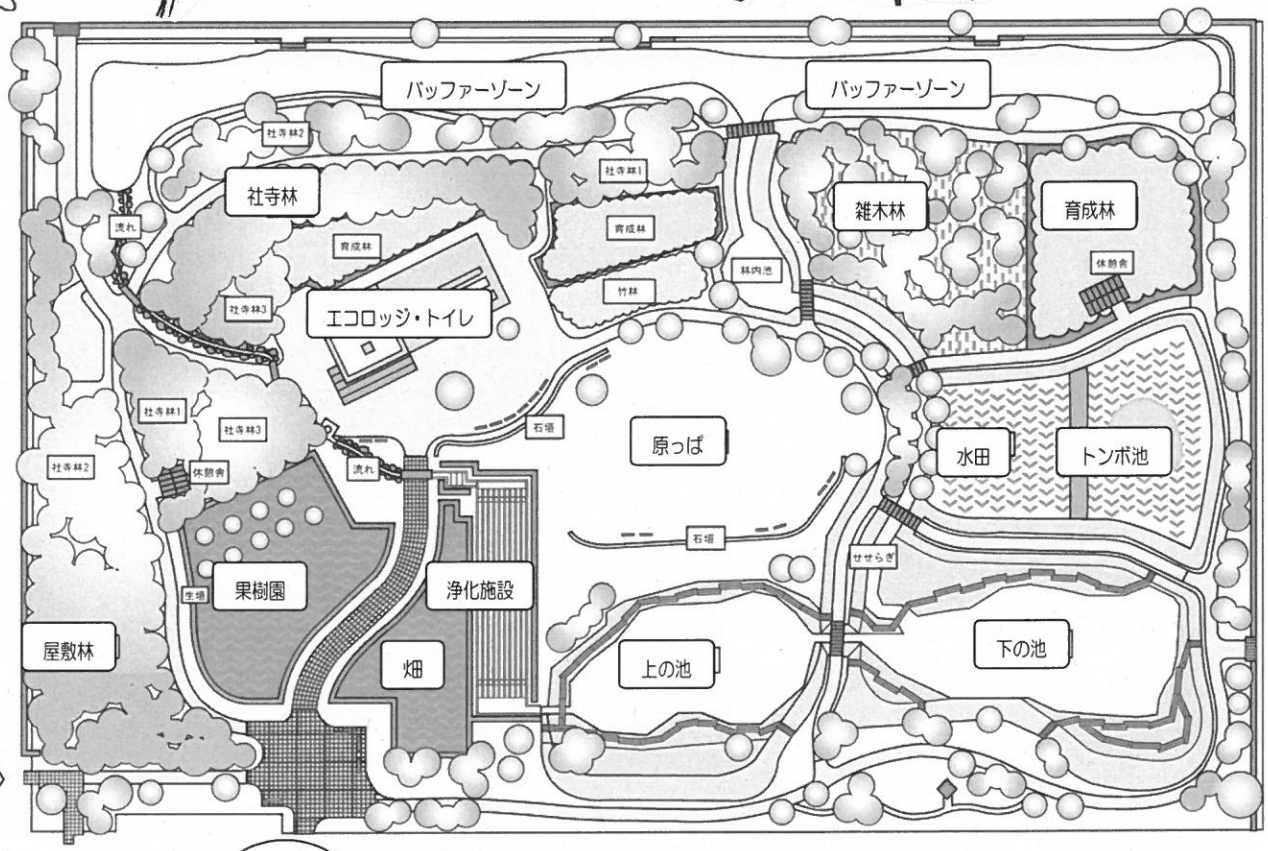


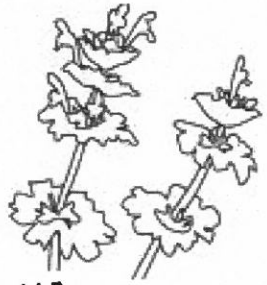
＊カスマグサ

＊スズメノエンドウ

＊セイヨウタンポポ

カラタチ





＊ホトケノザ

スズメノテッポウ

＊印は、裏に説明があります。

読んで参考にしてみて下さい。

＊ヒメオドリコソウ

春のマメ科の植物

生態園にもいろいろなマメ科の植物が、花を咲かせています。花の形はよく似ていますが、花の付き方や、葉の様子など、種類ごとに少しずつ様子が違っています。比べてみましょう。

シロツメクサ（シャジクソウ属）

白い花が球状に集まってつきます。　江戸時代、オランダからガラス器が送られてきた時に、詰め物に使われていたのが名前の由来です。牧草として広まり、野生化し、荒れ地でもよく育ちます。茎が地面をはって長く伸び、丸く広がった株を作っているのが観察できます。
地面を覆った株の中は光が当たりにくく、ほかの雑草が生えにくいので、牧草地でも重宝されています。

ムラサキツメクサ（シャジクソウ属）

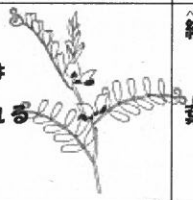
紅紫色の花が球状に集まってつきます。
明治時代にヨーロッパから牧草としてやってきました。シロツメクサと比べると草丈が高く、株が立ち上がって見えること、毛深いことなどが特徴です。

フ　ジ（フジ属）

花は左右相称で、蝶に似た形の蝶形花です。
フジの花には、大きなクマバチがよくやってきます。

レンゲソウ（ゲンゲ）（ゲンゲ属）

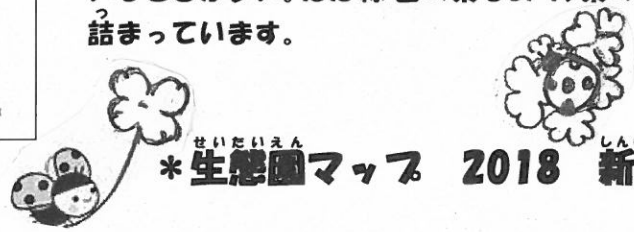
マメ科の植物の根には、根粒菌が共生しているものが多く、空気中の窒素を植物が吸収しやすいアンモニアに変えてくれます。土地も肥沃（農作物が良くできること）になり、環境にやさしい肥料として注目されているため、田んぼの肥料として種を蒔くことも多い植物です。

ソラマメの仲間	葉	花	豆と「さや」のようす
カラスノエンドウ	8～16枚の小葉 先端の巻きひげは 1～3本に分かれる 	紅紫色 （長さ約15mm） 葉の脇に 1～3個	豆のさや（30～50mm）が 熟すると黒くなる（カラス色） 種子は約１０個
カスマグサ （カとスの間の意味）	8～15枚の小葉 先端の巻きひげは 分かれない	淡い青紫色 （長さ５～７mm） 葉の脇から伸びた 柄の先に１～３個	豆のさや（10～15mm） 毛はない 種子はふつう４個
スズメノエンドウ	12～14枚の小葉 先端の巻きひげは 1～3本に分かれる	白っぽい紫色 （長さ３～４mm） 葉の脇から伸びた 柄の先にふつう４個	豆のさや（６～10mm） 短い毛あり 種子はふつう２個

セイヨウタンポポとカントウタンポポ

どこにでもあるタンポポですが、日本には、約20種類くらいあります。関東地方で代表的なものは、もとから日本にあったカントウタンポポと、ヨーロッパから来たセイヨウタンポポです。一見同じようですが、花をひっくり返して「ガク」を見ると、その違いがわかります。セイヨウタンポポの「ガク」は反り返っていますが、カントウタンポポの「ガク」は反り返っていません。セイヨウタンポポは、花粉がなくても種ができることや、春に限らず秋まで花が咲きます。繁殖能力がたいへん強いです。

ホトケノザとヒメオドリコソウ

同じシソの仲間のこの二つは花の形もよく似ています。見分けるポイントは葉の形とてっぺんの葉が赤ジソのように紫色になっているか、花の付いている間隔です。ホトケノザは丸みを帯びた蓮の花のような葉で、てっぺんは緑色。葉の間隔は開いていて軸がみえます。仏様が乗っている蓮華座に似ています。

ヒメオドリコソウは先がとがった三角形に近い葉で毛がはえていて、てっぺんは赤紫色になっていることが多い。ただ緑色の葉もあり、葉の間隔は詰まっています。